

社会的ジレンマ問題における罰行動によって起こる 集団間の代理報復

金澤智也

人々は集団に属し物事に対して協力し合うことで生活してきているが、日常生活において協力しない者も存在する。集団の協力問題の1つに社会的ジレンマがある。これらの解決法に罰制度の導入が挙げられる。しかし、社会的ジレンマを解決に導く一方で他者の利益を下げる罰行動は、攻撃的なスパイト行動に見られる可能性がある。そのため、被罰者が罰行使者に怒りを感じ代理報復行動を取ることが先行研究で指摘されている。代理報復とは他の集団の成員が自分の集団成員へと危害を与えたときに、それを知った被害者と同じ集団の成員が危害を与えた人と同じ集団の別成員に対して報復を行うという現象である。その報復行動は次の報復行動へと続き、集団間による報復の連鎖が生じる恐れがある。

それらのことから、本研究は「社会的ジレンマ問題における罰行動によって集団間の代理報復は起こるかどうかな」を検証することを目的とし理論検証型実験と罰行動に対して、「怒り」や「恐れ」を感じたかどうかについて感情に関する事後質問紙を行う。その結果、報復行動は一部見られ大きな差は無いが、実験条件の方が統制条件よりも報復が行われていたことがわかった。